

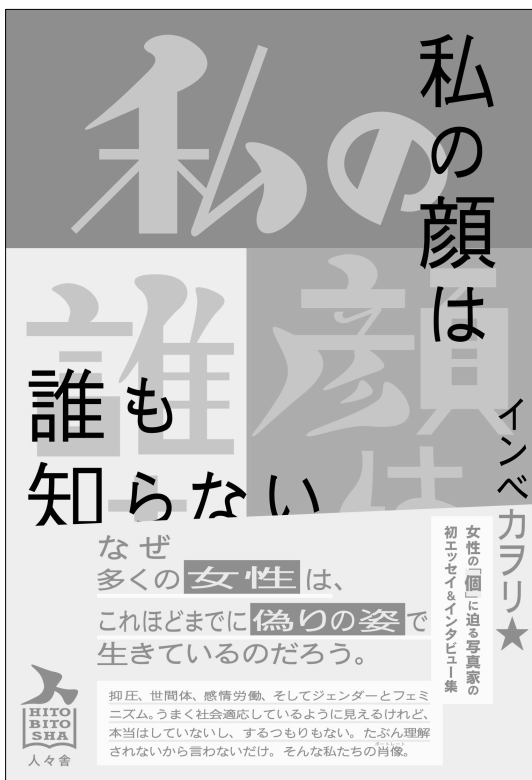
なぜ多くの女性は、これほどまでに偽りの姿で生きているのだろう。

私の顔は誰も知らない

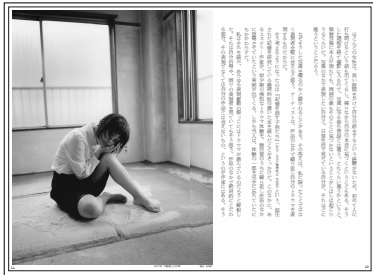
定価：本体 2200円【税別】 四六判・並製 380頁

インベカヲリ★

写真家 第43回伊奈信男賞、2019年日本写真協会新人賞
ノンフィクションライター 『家族不適応殺 新幹線無差別殺傷犯、小島一朗の実像』（KADOKAWA/2021）



膨大な数の女性の「個」に迫りポートレートを撮影してきた写真家の、初エッセイ&インタビュー集。被写体や女性たちへのインタビューと、著者自身の語りを通して、多くの女性が偽りの姿で生きざるを得ない、歪な社会構造を炙り出し、女性にとっての、ひいては人間にとっての幸福とは何なのかを考える。



「普通」を「標準」して生きる
この社会には、かつての私と同じように擬態して生きている女性がたくさんにも多い。「他人には理解されないだろう」と考えて、誰にも話してほしくないことを持っている。しかもそれは、普段は自己主張が少なかったり、まっとうに生きているように見えている女性ほど、内面との落差が凄まじい。多くの女性は、社会に適応して他人とコミュニケーションをとるために、いかにもその辺にいそうな人間に擬態していたのだ。
(本文より抜粋)

装丁：吉岡秀典（セブテンパーカウボーイ）

本文内容見本

いんべ・かをり●1980年、東京都生まれ。写真家。13年に出版の写真集『やっぱ月帰るわ、私。』（赤々舎）で第39回木村伊兵衛写真賞最終候補に。18年第43回伊奈信男賞を受賞、19年日本写真協会新人賞受賞。写真集に、『理想の猫じゃない』（赤々舎/2018）、『ふあふあの間隙』（①②③のシリーズ/赤々舎/2018）がある。ノンフィクションライターとしても活動しており、著書に『家族不適応殺 新幹線無差別殺傷犯、小島一朗の実像』（KADOKAWA/2021）がある。本書は初のエッセイとなる。

受注FAX **03-5356-9786** (人々舎)

- ▶取引取次：欽谷書店
- ▶トーハン、日販、楽天ブックスネットワーク、中央社、ほかの取次帳合書店様にも納品いたします。
- ▶注文出荷制のため見計らい配本は行っていません。 ▶返品は無期限で承ります【返品了解：樋口】 ▶直接取引大歓迎です。

貴店印	部	新刊	<h2>私の顔は誰も知らない</h2> <p>インベカヲリ★</p> <p>定価：本体 2200円【税別】 四六判・並製 380頁 東幅2.2cm ISBN978-4-910553-01-6 C0095 5月16日（月）取次搬入</p>
	部	好評既刊	
ご担当	部		